

そこが聞きたい

日向灘では今後三十年以内にマグニチュード(M)7・1前後の地震が70~80%の確率で発生すると予想されています。

村上 日向灘地震の震源域は、東九州沿岸と「南海トラフ」という海溝との間にあります。南海トラフは紀伊半島や四国の沖合でユーラシアプレートにフィリピン海プレートが沈み込んでいるところで、プレート相互の移動から大規模な地震発生の確率が高い海域です。四国沖から紀伊半島沖にかけては、今後五十年のうちにM8を超える東南海・南海地震が80~90%の確率で発生するとみられています。日向灘地震でこれまで最も大きかったものは、一六六二年の外所地震(M7・6)。堀切峠で山が崩れ、大淀川河口は一歩ほど地盤が沈下しました。

宮崎大学工学部准教授

海岸線が長い本県にとって、海側で地震が起きれば津波が気になります。

村上 海溝型の地震の場合、直下型の内陸地震に比べ、陸地での震度は小さい場合が多いのですが、津波の被害は甚大です。M8クラスの東南海・南海地震が同時に発生した場合、本

津波への対応

県沿岸では五~六メートルの津波が予想され、人的被害とかなりの建物被害が沿岸部を中心に発生します。県は、県内の津波による死者は約六百七十人、全壊家屋は約五千二百棟に上ると試算しています。

住民は津波へのしっかりとした備えが必要です。村上 震源が近い日向灘地震による津波の第一波は十分以内

村上 啓介さん

情報精度の向上が鍵

に到達します。気象台から津波避難警報や注意報が出るのは二三分ほどかかり、その後に住民は避難しなければなりません。しかし、これまでの状況からして避難率は低いのが実情です。理由は警報の内容と実際の現象が整合していないことにあります。結果、警報を信じて行動しようということにならないのです。現在は、地震の規模や震源位置をもとに設定した津波

予報データベースの中から津波の高さを出していますが、限界があります。最近では波浪観測用ブイを使い、沖合でいち早く津波波形をキャッチして警報を出す新たな取り組みが高知県、沖縄などで始まっています。実際に起きた現象に基づいた警報なので有望な方法と言えます。

十九日には宮崎港を主会場に大規模津波防災総合訓練が行われますね。



聞き手

報道部長

杉尾 守

村上 大地震に伴う津波の被害を最小に食い止めるには行政と住民がそれぞれの役割を認識しなければなりません。行政はより正確な津波警報を迅速に発令し避難を呼び掛ける。被災状況をいち早く把握し、復旧を図るために関係機関が連携し、情報を共有する必要があります。住民も情報入手するよう努め、得た情報を積極的に役立てることが求められます。それになぜ訓練が宮崎で行われるのかも考えてもらいたい。地震、津波を含め目の前に危機が迫っていることを肝に銘じてほしい。訓練を通し、地域の安全を再確認し防災力を強くしてほしい。(宮崎市・宮崎大で)

【プロフィール】九州大学工学部助手を経て1997年10月から現職。専門は水工学、海岸工学。「生物にとって水は最も重要。日本

は海に囲まれている」ことから水を扱う分野に興味を持った。スキューバダイビングが趣味。47歳。宮崎市。(むらかみ・けいすけ)